

令和4年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 開催日時 : 令和4年11月29日(火) 14:00~15:30

2 開催場所 : 池田高等学校 会議室

3 出席者 : 協議会委員 5名
教職員 5名

4 内容

- (1) 令和4年度学校経営計画の進捗状況について
- (2) 採択教科用図書について
- (3) 学校教育自己診断について
- (4) スクール・ミッションについて
- (5) その他

5 協議事項

- (1) 令和4年度学校経営計画の進捗状況について

校長より、配付資料に基づき進捗説明

- 1) ICT活用 - 教室用プロジェクターを12台更新できた。授業アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率が3.22ポイントに上昇した。
- 2) 池高型アクティブラーニングの継承 - 引き続き、対話的な授業を重視している。
- 3) 知識・技能の定着、学び続ける力の育成 - 授業アンケート「自学自習」の肯定率は2.99ポイントに低下。総合的な探求の時間を中心に言語活動を重視している。
- 4) 生徒育成 - 体育祭と文化祭をコロナ禍前とほぼ同じ形態で実施できた。遅刻防止の取り組み中だが、効果が出ていない。
- 5) 国際理解教育 - コロナ禍のため、海外語学研修は停止中。国内での英語力発信力講座は参加希望者が少なく、不成立。
- 6) 学校施設改善 - 中館雨漏り、体育館床補修など、可能な部分から随時改善中。
- 7) 学校広報 - オープンスクール参加者数が606人、第1回学校説明会は692人と過去最高の数値となる見込み。スマートフォンに対応可能な学校ホームページへのリニューアル、外部業者に依頼し、広報パンフレットとポスターを制作した。

- (2) 意見交換

委員遅刻は増えているのか。

学校コロナ禍の影響により、本校だけではなく、府立高校全体で遅刻や欠席の数は増加している状況にある。

委員他校と比較して、池田高校の遅刻数は有意に増加しているのか。効果的な対策をするためには、池田高校が独自で取り組むべき部分と、府立高校全体で取り組むべき部分を切り分けなど、問題の整理をするべきではないか。

委員 コロナ禍により、児童生徒間の人間関係づくりは薄くなった。従来であれば、それぞれの年齢段階における児童生徒間の不和や衝突を経験し、乗り越えていた。高校でも、コロナ禍前では想定できなかったような問題が起こる可能性がある。

委員 国際理解教育に関しては、ICTの活用に検討の余地がある。若い世代はICTの活用に心理的な障壁がなく、スムーズに利活用できる。たとえば大学では、海外の人々とスマートフォンのアプリを使用して手軽にコミュニケーションをとっている学生がいる。

学校 そのような流れができると、生徒はどんどんコミュニケーションを取ると思うが、流れをつくるまでの体制づくりが大変ではないか。

委員 小さい取り組みでもよいので、コミュニケーションの機会を繰り返し用意するのがよい。

委員 進捗状況の中であげられているポイントとはどのように調査しているのか。

学校 年2回の授業評価アンケートと年1回の学校教育自己診断での数値を利用している。

委員 小数点以下の数値変化に一喜一憂せず、傾向として上昇しているのか、下降しているのかに注目すればよいのではないか。設問項目に関しては、日々の授業内容に落とし込めるよう、現場教員との意思疎通をより密にすることも重要である。

委員 学校広報活動の中で利用する写真や映像に関して、著作権の処理が適切に行われているか。

学校 適切に処理していくよう、注意深く進めていきたい。

(3) 学校教育自己診断について

校長 より、配付資料に基づき、今年度の追加質問項目を説明。

→追加質問項目：「生徒1人1台端末を効果的に活用している。」

以上